

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520269

研究課題名（和文）社会運動としての文学——アフリカの HIV／エイズと小説

研究課題名（英文）Literature as a Means of Social Movement: HIV/AIDS in African Literature

研究代表者

大池 真知子（OIKE MACHIKO）

広島大学・大学院総合科学研究科・准教授

研究者番号：90313395

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ 各国文学・ 文学論

キーワード：アフリカ文学、エイズ

### 1. 研究計画の概要

(1)研究の目的は、HIV／エイズをテーマにしたアフリカの小説を分析し、小説という語りが社会にどう働きかけ、HIV／エイズ問題にどうアプローチするかをさぐることにある。

#### (2)研究の方法は

- ①HIV／エイズをテーマにした小説を収集し、分析する。
- ②小説以外の HIV／エイズの語りを収集し、分析する。
- ③両者をあわせて、HIV／エイズの語りをあぶりだし、そのなかで小説の語りの特徴と意義を考察する。

### 2. 研究の進捗状況

(1)南アフリカとウガンダで、HIV／エイズの小説の収集を行った結果

- ①当初予想した以上に多くの作品が書かれていること
- ②ここ数年、本格的な小説が書かれていること
- ③作品は、啓蒙目的のヤングアダルト小説、社会の性風俗を批判する小説、若い女の性を告白する小説、医療の現場を描く小説、ホモセクシュアルの性を描く小説に、点数の多い順に挙げると大別されることが明らかになった。

(2)女の性に注目し、上記(1)③のうち、ヤングアダルト小説、性風俗小説、女の性の小説の分析を行い、研究発表、論文執筆を行った。HIV／エイズについて語ることで、性や死といったタブートピックを語ることになり、予定調和的な語りを書き換えるような新たな小説が書かれていることが明らかになった。

(3)小説以外の資料も収集した。2003年から2006年の「ガーナにおける HIV／エイズ演劇についての研究」(課題番号 15720075)の成果をさらに発展させ、HIV／エイズ言説を概観する研究発表を行った。HIV／エイズをめぐって映画、演劇、テレビドラマ、ラジオドラマ、小説など、さまざまな語りの取り組みがあり、とくに視聴者や読者の参加が図られていることが明らかになった。

(4)現地調査により、メモリーワークという、HIV感染者が自分史と家族史を語る取り組みがあることが分かった。これについて中間報告的な論文を執筆した。2009年に研究発表を予定している。草の根の母親が自己と家族について語ることで、「語る私」が構築されること、その語りが共同で行われることで、共同体のジェンダー意識が変容する可能性があることが、これまでに明らかになっている。

(5)新たなジャンルとして、草の根の女の語りを知識人の女が聞き取り、文章にするという「創作的ノンフィクション」という試みがあることが明らかになった。具体的な分析はまだである。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(1)HIV／エイズを扱った本格的な小説が、研究計画中に相次いで発表されたため、それらの作品を分析するのに労力を費やした。その結果、女の性の表象については、当初予想した以上に緻密な分析ができた。その一方で、より大衆的な小説を分析すること、小説以外の語りと総合的に分析することが遅れている。

(2) メモリーワークの分析は、当初計画にはなかったものだが、草の根の女の語りの可能性を示すものとして、今後検討を加えていく。しかし発展的な考察には現地調査が欠かせず、時間的、予算的な制約のため、本研究課題のなかで十分に考察するのは困難であろう。

(3) 「創作的ノンフィクション」はまだまったく読み込んでいない。自伝も入手しているが、未検討である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまでの現地調査の結果をもとに、メモリーワークの考察を進める。「創作的ノンフィクション」を分析する。それらの結果と、すでに行った小説の分析を総合し、女が性を語ることにテーマをしぼって、草の根から中産階級の語りの一端を提示する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

大池真知子 「アフリカの HIV/エイズ小説が表象する性的な身体——アマ・ダーコの『花なしでなく』分析」『黒人研究』査読有 78号 2009年 59-66

大池真知子 「「メモリーブック」を書く私——HIV 陽性の親が記す家族史を文学の視点で読む」『人間文化研究』依頼論文 1号 2009年 20-41

OIKE Machiko “A New African Youth Novel in the Era of HIV/AIDS: An Analysis of Far and Beyond by Unity Dow.” *African Literature Today* 査読有 27号 2009年 掲載決定

大池真知子 「女を意味すること、女を生きること、エイズで死ぬこと——ドリーン・バインガナの『熱帯魚』分析」『多民族研究』2009年 掲載決定

[学会発表] (計 1 件)

大池真知子 「アフリカが語る HIV/エイズ——映画、演劇、文学、メモリーブック」日本黒人研究会 第 53 回全国大会 シンポジウム「アフリカの半世紀を考える」2007年6月 キャンパスプラザ京都

[図書] (計 1 件)

ガヤトリ・スピヴァク著 大池真知子訳 岩波書店 『スピヴァク みずから語る——家・サバルタン・知識人』2008年 頁 (Gayatri Chakravorty Spivak et al., *Conversations with Gayatri Chakravorty Spivak*, London, New York and Calcutta: Seagull, 2006 の翻訳)